

- 1 開催日時 平成25年12月18日(水) 9:30~11:30
- 2 会場 都庁第二本庁舎 31階 特別会議室22
- 3 出席者 巽委員(委員長)、米山委員、藪長委員、諏訪委員、善養寺委員、川合委員、柳沢委員、志村委員、田谷委員、徳田委員、加藤秀次委員、丸山委員、浦部委員、武田委員、阿久津委員、高野委員(副委員長)、堤委員、加藤裕之委員、出張委員

#### 4 議事概要

##### (1) 委員長の選任について

- ・ 巽委員を、本委員会の委員長とする。
- ・ 副委員長は、高野教育監とする。

##### (2) 都立専門高校の現状と課題について

< 専門高校改編の全体に関する内容 >

- ・ 学校の個別事情をきちんと把握することが重要である。

< 入学時の課題等 >

- ・ ものづくりなどを学ぶ機会が少なくなり、中学生が進路選択をする際に、専門性の志向をもって進路先の判断をすることができない状況がある。
- ・ 生徒の高校進学という点から、中学校の教員は難易度で進路指導をせざるを得ない面もある。
- ・ 普通科に進学する生徒が非常に多く、また、将来何になりたいか決まっていないため、取りあえず普通科に進学してしまう傾向がある。
- ・ 入口の段階で目的意識をもたせることが重要であるとの指摘は以前からなされてきた。
- ・ 中学の進路指導担当が、多様な専門高校の中身を説明することができないことがあるのではないか。
- ・ 以前は、専門高校の学科分類がここまで複雑ではなかった。
- ・ 普通科に対する専門高校全体の倍率や、中学生にとっての進路選択が難しくなっている現状に目を向け、改革をしていくことが重要だと思う。

< 入学後の進路などに関する課題等 >

- ・ 中途退学の原因として、家庭の事情も挙げられる。精神的なケアの必要性等を、専門高校が抱える共通の課題として捉えていくことも必要である。
- ・ 専門高校で体や手先を動かして学ぶ内に、更に進学する意欲が芽生えること

もある。

- ・専門的な内容を学びたいと思い専門高校を選択した結果、仮に自分に合わない進路先であることがわかり退学する場合、それは仕方がないことだと思う。
- ・専門高校を卒業し、取りあえず大学に進学するということは大変もったいないと思う。また、専門高校を出て、その分野の大学に進学する場合も、大学1～2年で学ぶことは専門高校時代に習得している。

#### <専門高校での学習等について>

- ・大事なのはヒューマンスキルであり、年齢や経験に関係なく、誰にでも質問ができる人は成長が早いと思う。個々の人間の性格にあった教育をしてあげることによって成長が促される。
- ・工業科だけでなく他学科においても、デュアルシステムのような仕組みの導入を検討してみてはどうか。
- ・既に進学型の専門高校は設置されているが、入学後に進学希望に転じた生徒のニーズに応えるため、一つの高校の中に進学希望向けのコースを設けてもよいのではないか。

#### <個別の学科の状況等>

- ・工業分野は、日本人がグローバルに活躍できる場でもあるということ、保護者には理解してもらいたい。
- ・商業高校では、高校入学時に就職を希望していた生徒は、そのまま卒業後に就職する傾向にある。また、大学に進学するために商業科に進学するという生徒は多くない。安易に大学進学を考えさせないように、社会につながる教育を行うようにしている。
- ・福祉科では、人材ニーズの高度化が進んでいる一方、中学から高校への入口の在り方について検討する際、福祉分野では、もう少し幅広く間口を広げて専門学科としての在り方を考えていかなければならないと思う。
- ・ファッション系の専門学校には、家庭科やデザイン科だけでなく、工業や商業科の卒業生も入学してくるが、こうした生徒が普通科から進学してきた他の学生をリードしている面もある。
- ・東京東部の中学卒業生の場合、例えば畜産関係の勉強がしたいが当該分野の高校が近くになく、瑞穂農芸まで時間をかけて通学している生徒もいる。福祉分野も同様であり、こうした専門学科が東京東部にもあるとよい。

(以上)